

奈良の丘だより

横浜市立奈良の丘小学校

学校教育目標

2月号

笑顔いっぱい チャレンジいっぱい 奈良の丘



- 自ら考え、進んで行動する子を育てます
- 互いに認め合い、高め合う子を育てます
- たくましく、共に生きる子を育てます

更新中

<http://www-local.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/naranooka/>

「安心して学校生活を送るために！」Part2

副校長 和内 昭子

11月号で「横浜子ども会議」での様子を紹介しました。子どもたちのために、大人の私たちができること「優しい環境作り」を目指して学校で取り組んでいる一例を紹介します。

右の資料は、横浜市教育委員会が児童生徒向けに作成した「見つめ、気づき、変わる」(3年生～6年生用)の中の「心をつなぐ」について考える学習資料です。

ここでは、言葉の「つなぐ言葉」「切る言葉」について考えます。

「つなぐ言葉」は人と人をつなぐ、自分と友だちをつなぐ、なんだか嬉しくなったり、ホッとしたりする言葉です。反対に「切る言葉」は、人と人とのつながりを切り、言われると悲しくなったり、嫌な気持ちになったりする言葉です。子どもたちは、どんな言葉があるか色々考え確かめました。

相手と心をつなぐための話し方を考えてみましょう。

次のようなとき、あなたならどんな言い方をしますか？

できたプリントを先生に見てもらおうと並んでいたとき、あなたの前が少しあいていたので、友だちが並んでしまいました。
あなたはなんと言いますか？

A. なにするの。わりこまないでよ。

B. 困るなあ。さっきから並んでいたのに。

Aは、並んでしまった相手(友だち)を主語にした言葉です。

→「(あなた) なにするの。(あなた) わりこまないでよ。」

そのため、友だちを責めているように聞こえるので、友だちも「カッ」となって言い返してくるかもしれませんね。

Bは、並んでいた自分を主語にした言葉です。

→「(わたし) 困るなあ。(わたし) さっきから並んでいたのに。」

あなたの困っている気持ちが友だちに伝わって、「ごめんね」という言葉が返ってくるかもしれませんね。



Aのような、相手を主語にした言い方を「あなたメッセージ」と言い、

Bのような、自分を主語にした言い方を「わたしメッセージ」と言います。

相手に何かを伝えたいとき、「あなたメッセージ」で相手のことを話すよりも、「わたしメッセージ」で、自分の気持ちを素直に伝える方が、相手も素直に受け入れることができ、心がつながりやすいですね。

右上の場面は、子どもたちの日常生活の中では、よくある出来事です。Aさんの場合は、「なにするの。わりこまないでよ」というよりは、「やめて」「だめだよ」と言う言い方をよく耳にします。言われた子は「やめて」と言われると「なんで」と言い返したくなりトラブルになります。それは、(ちゃんと並んでいるのに。)と自分の思いがあるからです。そこで、Bさんのわたしメッセージ「困るなあ」「悲しいなあ」で伝えてみると割り込んだ子も「どうしたの？」と声をかけたくなり、相手の気持ちに気づきやすくなるのです。学校生活の中では、「あなたメッセージ」の言葉が多く使われています。「わたしメッセージ」を使うことはなかなか難しいようです。これは、大人社会でも同じですね。私たち大人も同じ人間。嬉しいときは、嬉しい、悲しいときは悲しい。大人が、「わたしメッセージ」で対話し、心をつなぐ話し方で「優しい環境づくり」の子どもたちのお手本となり、日本の社会を温かな言葉で溢れるようにしたいです。